

里山公園

助川 信彦

わが鬱^やの遣り場を求め娘^この車にて茅ヶ崎里山公園に行く

さみどりの丘起伏する里山に折しも響く器楽演奏

立ち坐りもろ手叩きて声出だす聴衆の中に吾も入り行く

演奏会の世話人寄り来て車椅子の吾^あにカメラ向け頬笑めと言ふ^{ほほえ}

豎琴^{たてこ}は草の上に立てもろ手もて掻き鳴らしつつ足拍子とる

茅ヶ崎音頭を弾^ひきをリドットコイドットコイは浜降祭^{はまおり}の御神輿^{おみこし}の声

演目も尽^つきたるらしき中心の白髪^{はく}の老いが挨拶始む

丘よりくだる長き滑り台その下の「風の広場」が演奏会場
カラカラと空に響くは滑り台の金属の輪のめぐる音らし続きいれる

大正ロマン

わが生誕大正七年旧盆の蒸し暑かりし夜半とぞ聞く

米騒動警戒刑事の誰何受け父は漸く産婆呼び来ぬ

シベリア出兵物価暴落スペイン風邪と騒然たりし大正中期

裾乱し黒猫抱くをみな絵夢ニが描く大正ロマン

「そなた最早セルを着たるか」カフェにて木下杢太郎女給に告ぐる

極限の飢餓と人肉嗜食描く野上弥生子の「海神丸」は

平民宰相原敬立ちて目指したる大正デモクラシー遂に実らず